

令和 4 年 5 月 26 日
(公社) 日本火災学会

令和 4 年度（2022 年度）定時総会 次第

於：オンライン定時総会

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. 開会宣言 | 総務理事 |
| 2. あいさつ | 会長 |
| 3. 議事 | |
| (1) 議案第 1 号「令和 3 年度収支決算承認の件」 | |
| ア 令和 3 年度(2021 年度)事業報告 | 総務理事 |
| イ 令和 3 年度(2021 年度)収支決算報告 | 会計理事 |
| ウ 令和 3 年度監査報告 | 監事 |
| (2) 議事録署名者の選出 | |
| 4. 報告 | 議長 |
| (1) 令和 4 年度(2022 年度)事業計画、予算計画 | |
| (2) 学会賞選考委員会の報告 | |
| (3) 論文集オンラインジャーナル化に関する意見徵収 | |
| 5. 閉会宣言 | 刊行理事 |
| 総務理事 | |

令和 3 年度(2021 年度)事業報告書

令和 4 年 5 月 26 日

公益社団法人日本火災学会

令和3年度(2021年度)事業報告書

1. 事業の状況

1) 研究発表会、火災科学セミナー、講演討論会の開催

ア. 研究発表会の開催状況

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に配慮し、2021年5月29日、30日に研究発表会をオンライン開催した。研究発表会概要集はPDFダウンロードおよびCD-ROMにより発行した。

イ. 火災科学セミナーの開催状況

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に配慮し、集合型の火災科学セミナーを中止し、有識者による講演映像を録画したDVD送付形式により実施した。

テーマ		講師	
【主題】東日本大震災から10年～風化させないために～			
1	東日本大震災時における被災地消防本部の判断と活動	横浜国立大学 座間 信作 氏	
2	～風化させないために～ 大震災を振り返る	神戸大学 北後 明彦 氏	
3	次の大災害に備えて地域社会が目指すべき方向性	東京大学 加藤 孝明 氏	
【主題】ガス系消火設備の効果と安全対策			
1	令和2年12月22日に名古屋市内で発生した二酸化炭素消火設備の放出事案に対する対応	名古屋市中消防署 正入木 政人 氏	
2	機械式駐車場等に設置される不活性ガス消火設備の 消火効果と安全対策	日本消火装置工業会 米田 裕策 氏	
3	ガス系消火設備の危険性と地球環境保護	東京理科大学 小林 恒一 氏	

ウ. 講演討論会の開催状況

講演討論会を次の通り開催した。

開催年月日	会 場	参加人員	主 題・基調講演
令和4年 1月28日	オンライン 開催	100人	主題：「広域・林野火災への消防対策」 講演 1) 広域・林野火災への消防対策の実際と課題 2) 広域火災事例における消火活動と課題 3) 足利での林野火災への地元消防本部の活動と 課題 4) 足利での林野火災への緊急消防援助隊としての 指揮活動と課題

2) 学会誌・学術図書等の刊行

ア. 会誌「火災」を次の通り刊行した。

卷	号	ページ数	特 集 記 事 等	発行部数
Vol. 71	No. 2	64 ページ	テロ災害への対応 (テロの現状と爆発物テロ対策、オリンピックにおけるテロ対策…CBRN テロを主体に、バイオテロ・災害への対応、国際テロの現状と我が国に対する脅威、テロ災害への対応 爆発物・化学剤・生物剤の現場検知について、爆発物テロの威力・被害について) 防災コラム（その 12） (新型コロナ感染症リスクとビル火災の避難安全)	1,500 部
同上	No. 3	64 ページ	知っておきたい火災の学理 (燃焼現象の基礎、火災と化学、電気火災の基礎—短絡の火花粒子による着火—、気体消火剤を用いた消火の基礎、相似則の基礎と火災研究での応用)	同上
同上	No. 4	64 ページ	飛び火 (強風にあおられ住宅まで延焼した大規模林野火災、飛び火警戒に関して定めた文書に関する消防へのアンケート、火の粉による飛び火現象に関する解説、糸魚川市街地火災時の瓦屋根に着床した火の粉による延焼再現実験と対策、飛び火による市街地火災の延焼過程のモデル化、飛び火と上空の煙の位置に関する考察)	同上
同上	No. 5	64 ページ	防災コラム（その 13） (二酸化炭素消火設備による事故の再発防止に向けて) 難燃と防炎 (リン系難燃剤の防火・防炎材料への適用、不燃・難燃材料の化学組成、木質材料向け不燃剤の開発、リンーチソン系難燃剤の単板積層材への応用、防炎性能試験に係る現状と対策について、難燃処理木材の防耐火性能評価および試験方法の現況)	同上
同上	No. 6	64 ページ	大規模競技施設の防災計画 ～東京 2020 オリンピック・パラリンピック～ (国立競技場の防災計画、東京アクアティクスセンターにおける防災計画、有明アリーナの防火避難安全設計、有明体操競技場の火災安全設計) 二酸化炭素を放射する消火設備の概要と課題 防災コラム（その 14） (森林火災の動向と気候変動)	同上
Vol. 71	No. 1	64 ページ	避難訓練の再考 (避難訓練のあり方を考える、避難訓練に関する指導、高層事務所ビルの順次避難計画による避難訓練、火災事例から学ぶ避難の教訓と課題) 大阪北新地の一階段小規模難居ビル火災に思う —あらためて喚起された二方向避難確保の重要性—	同上
合 計	6 卷	384 ページ		

イ. 論文集を次の通り刊行した。

巻	号	ページ数	論 文 名	発行部数
Vol. 71	No. 1	23 ページ	1) 高山市三町重伝建地区における火災信号共有システムの運用実績と地区の防災戦略基盤となる地域状況に関する実態調査 2) イオンプローブとシュリーレン法を用いたマグネシウムの火炎に関する実験的研究 3) RIP シガレットの着火性に関する実験的研究 第 4 報 —室内環境条件を変更したせんべい布団における RIP シガレットの効果検証—	800 部
同上	No. 2	27 ページ	1) 各種木材の熱分解速度の測定と反応速度パラメータの推定 2) 平成 30 年（2018 年）北海道胆振東部地震に起因する火災に関する調査 3) 火災出動における消防隊員の殉職事故の発生傾向	同上
同上	No. 3	27 ページ	1) 真円度を指標とした狭い空間内の燃え広がり形態の分類 2) 自動車火災時における隣接自動車への延焼拡大 3) 綿の燃焼着火に及ぼし得る密度の影響	同上
合 計	3巻	77 ページ		

3) 研究及び調査等の実施状況

ア. 学術委員会関係

委員会名	構 成	活 動 概 要
化学火災 専門委員会	(主査) 田村昌三 (幹事) 中村 順 他委員 10 名	<p>第 1 回：3 月 1 日</p> <p>2021 年度は委員会 1 回を開催し、各種事故事例について検討を行った。本専門委員会は消防、警察、労働、産業の事故調査の専門家で構成されており、委員会活動により事故調査技術の向上を図り、各種事故の未然防止に役立てていくことを目標としている。</p> <p>(1) 化学火災・爆発事故事例について、事故原因等の検討を行った。2021 年度は、排水浄化センター内の爆発、亜鉛末工場での爆発、CVD 炉付属の真空ポンプ分解中の爆発、地下駐車場 CO2 噴出事故、亜鉛末工場の粉じん爆発事故などの事例について検討を行った。</p> <p>(2) 本専門委員会の委員が火災誌 71 卷 2 号 2021 年 4 月「テロ災害への対応」の特集において、火災誌編集小委員会に記事の構成などで協力するとともに、爆発物のテロ動向、その対策を紹介した。</p> <p>2021 年 7 月 1 日の安全工学シンポジウムに参加し、オーガナイズドセッション「外部要因による事故・災害（自然災害、人災）への対応」において、テロ災害について紹介した。</p> <p>2022 年 3 月 10 日の安全工学会地域セミナーにおいてガソリン火災と火災抑制剤放射器を使用した実験について参加し、放火テロについて講演を行った。</p> <p>(3) 2022 年度に向けて、オーガナイズドセッション、公開討論会、火災誌への掲載などについて引き続き検討することとした。</p>

火災ガス毒性専門委員会	(主査) 成瀬友宏 (幹事) 若月 薫 他委員 8名	<p>第1回：8月23日，第2回：10月28日， 第3回：1月31日</p> <p>コロナ禍のため2021年度は、下記の日程で委員会をオンラインで開催し、火災時に発生するガスの毒性について以下の活動を継続的に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ISO/TC92/SC3における活動の最新情報について情報収集を行った。特に、毒性評価の指標として国際的に認知されているISO13571のFED等の算出方法について、見直しが行われ、その結果について情報共有を行った。 (2) ガス毒性の評価に関する理解を深めるために、ISO13571-1 “Life-threatening components of fire – Guidelines for the estimation of time to compromised tenability in fires” の翻訳について、昨年度に引き続き、更に作業を継続した。 (3) 国内で実施されたガス有害性試験に基づく試験時のガス成分分析結果について、情報共有を実施した。
避難行動専門委員会	(主査) 水野雅之 (幹事) 榎本満帆 他委員 13名	<p>第1回：5月21日，第2回：7月26日， 第3回：11月1日，第4回：12月17日， 第5回：2月16日</p> <p>本委員会では安全な避難計画の立案のための基礎データや検証方法の整備を目的とした活動を行っている。本年度は3か年計画の一年目の年度として、以下の内容を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) VR技術を活用した避難行動の研究について「バーチャルリアリティを活用した避難実験の可能性」と題したシンポジウムを、2021年7月16日にオンラインで実施した。委員が実施した実験研究を紹介し、聴衆から様々な意見が寄せられた。VR技術の火災・避難研究への活用可能性や注意点について議論を深められた。 (2) 近年の火災事例の分析を行った。特に、大阪北新地放火事件に関して、インターネットやニュース番組から情報を収集し、火災被害が拡大した要因について分析した。また、類似の雑居ビルでの火災避難上の対策について議論した。 (3) コロナ禍の火災安全について検討を行った。特に、密閉された階段で長時間にわたり滞留してしまう状況をどう回避するか対応案を検討した。また、コロナ禍で変容するライフ/ワークスタイルについて、防火上の問題点や解決策について検討した。 (4) 昨年度に引き続き、超高層建築物における火災安全設計に関する検討を行い、階段内での滞留を軽減のための避難誘導方法や中間避難階の設置などについて議論した。
自動車火災専門委員会	(主査) 田村陽介 (幹事) 山崎浩嗣 他委員 13名	<p>第1回：7月14日，第2回：11月30日， 第3回：1月25日，第4回：3月29日（予定）</p> <p>本年度では新型コロナウイルス感染予防のため、Web会議により計4回開催する。以下に活動内容を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 本委員会での研究活動の方向性を審議した。結果、自動車の電動化技術はより推進することが見込まれるため、新技術対応に対する自動車火災に関わる関連法規の取りまとめ、および事故データベース等からの課題抽出による評価提言を行う。また、消防や道路関係者等の事故車両処理を実施する事業者にて、電動車の安全な事故後処理手法に関する相談が多いことから、本委員会として講演会や講習会を行い、正しい情報を広く展開するための活動を実施する方向で検討することになった。 (2) 近年の自動車火災に関わる研究活動として、屋内駐車場における内燃機関車や電気自動車および燃料電池自動車

		の延焼性、電気自動車の道路トンネル通行に関する火災安全性、液化水素を燃料として大型商用車の開発動向、駐車場設備内のCO ₂ 事故について情報展開した。
地震火災専門委員会	(主査) 北後明彦 (幹事) 廣井 悠 他委員 13名	<p>第1回：5月10日，第2回：7月29日， 第3回：9月15日，第4回：11月17日， 第5回：1月12日，第6回：3月15日</p> <p>自然災害に伴う火災の情報を収集し、今後の災害対策に生かすため、主な活動内容として、以下を実施した。</p> <p>(1) 地震火災・広域火災など自然災害に起因する火災調査データベース作成に向けた検討および、収集した情報を整理した。</p> <p>(2) 大阪湾に上陸した2018年台風21号に伴って発生した火災に関する調査を継続するとともに、関東地方を中心には被害が発生した2019年台風15号および19号に伴う火災に関する調査を実施中である。</p> <p>(3) 上記および、自然災害(自然現象)に起因する火災に関して網羅的に調査するために、令和3年度内田博士記念研究助成を申請し採択された。</p> <p>(4) 関東大震災100年のシンポジウムの枠組みおよび内容について、継続的に審議した。</p> <p>2022年度も地震火災や自然災害(現象)に伴う火災の予防のために、網羅的調査とともに出火メカニズムの解明を行う。</p>
文化財建造物防災専門委員会	(主査) 長谷見雄二 (幹事) 土屋伸一 他委員 9名	<p>第1回：7月21日，第2回：10月22日</p> <p>(1) 例年建築士会等からの要請により、ヘルテージマネージャーの防災講習等に講師を派遣している。今年度は愛知・東京建築士会からの要請によりオンラインによる講習を、日本建築家協会からの要請によりオンデマンドによる講習を行った。</p> <p>(2) 編纂した「文化財建造物の火災対策指針とその解説」の改訂に向けた検討を行った。</p> <p>(3) 近年、文化財建造物の火災が多発していることに鑑み、文化庁の文化財防災担当職との意見交換会をオンラインにて行った。</p> <p>(4) 「文化財・歴史的建築物の防火対策-文化財保護法制定から70年目の状況と課題-」と題して火災誌に寄稿をした。</p>

4. 刊行委員会関係

委員会名	構 成	活 動 概 要
火災誌編集小委員会	(主査) 水野雅之 (幹事A) 常世田昌寿 (幹事B) 小柴佑介 他委員 23名	委員会を12回開催し、年6回刊行する会誌「火災」の企画、編集などに当たった。ただし、委員会の開催は、コロナ禍の状況を踏まえて、オンラインを併用した方法とした。前記の刊行状況に示すとおり、テロ災害、火災の学理、飛び火、難燃・防炎、大規模競技施設（東京2020）及び避難訓練といった特集テーマを企画したこと加え、防災コラムやその他個別の記事により、各種話題を報告した。
論文集編集小委員会	(主査) 松山 賢 (幹事) 堀田博文 他委員 7名	委員会をリモートで2回開催し、適時メールにて投稿論文の検討、査読結果の審議を行い、4月、8月、12月に「日本火災学会論文集」を3巻刊行した。
ホームページ小委員会	(主査) 桑名秀明 (幹事) 石原慶大 他委員 5名	学術委員会と協力して、研究発表会や講演討論会などの参加費等のクレジット決済への対応を行った。セキュリティ向上対策を行った。

4) 業績の表彰及び研究の奨励

ア. 日本火災学会賞の授与

令和3年5月29日付けで、令和3年度(2021年度)の日本火災学会賞を中村祐二君に授与した。なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止に配慮し、令和3年5月29日の日本火災学会研究発表会オンライン開催において授与式と記念講演を実施した。

令和4年度(2022年度)の日本火災学会賞は、令和4年1月21日の学会賞選考委員会において桑名一徳君、岡本勝弘君が選考され、令和4年2月16日の理事会に諮り、授与することを決定した。

受賞者氏名	対象業績題目
桑名 一徳	燃焼科学を基盤とした火災・爆発現象のモデリングに関する一連の研究
岡本 勝弘	石油系液体燃料火災にかかる各種性状の実験的解明と危険性予測に関する一連の研究

イ. 日本火災学会内田奨励賞の授与

令和3年5月29日付けで、令和3年度(2021年度)の日本火災学会内田奨励賞を今西美音子君、山下平祐君に授与した。なお、新型コロナ(COVID-19)感染拡大防止に配慮し、令和3年5月29日の日本火災学会研究発表会オンライン開催において授与式を実施した。

令和4年度(2022年度)の日本火災学会内田奨励賞は、令和4年1月21日の学会賞選考委員会において城明秀君が選考され、令和4年2月21日の理事会に諮り、授与することを決定した。

受賞者氏名	対象業績題目
城 明秀	建物火災時の群集避難および避難シミュレーションに関する研究

ウ. 学生奨励賞の授与

令和3年度(2021年度)の学生奨励賞は、29編の応募に対し、学生奨励賞選考委員会により選考された、岩井祐希奈君、菊地毅之君、小林広樹君、佐伯琳々君、山本舜也君の5名に対し学生奨励賞を授与した。

エ. 日本火災学会技術賞の授与

令和3年5月29日付けで、令和3年度(2021年度)の日本火災学会技術賞を長岡勉君、鈴木暢人君、出口嘉一君、重松拓也君に授与した。なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止に配慮し、令和3年5月29日の日本火災学会研究発表会オンライン開催において授与式を実施した。

令和4年度(2022年度)の日本火災学会技術賞は、令和4年1月21日の学会賞選考委員会において市川誠君、高山剛君、濱田悠司君が選考され、令和4年2月16日の理事会に諮り、授与することを決定した。

受賞者氏名	技術名称
市川 誠	
高山 剛	
濱田 悠司	建設現場向け IoT 火災報知システムについて

オ. 日本火災学会業績賞の授与

令和3年5月29日付けで、令和3年度(2021年度)の日本火災学会業績賞を特定非営利活動法人日本防火技術者協会に授与した。なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止に配慮し、令和3年5月29日の日本火災学会研究発表会オンライン開催において授与式を実施した。

カ. 内田博士研究助成金交付

令和3年12月13日に開催された理事会において、本年度の内田博士研究助成は、総務省消防庁消防大学校消防研究センター大津暢人君から申請のあった風水害などの自然災害を起因とする火災に関する研究について研究助成金を交付することが決定した。

5) 関連学術団体との連携及び協力

安全工学シンポジウム及び燃焼シンポジウムなどの団体の事業と協賛又は後援を行った。

2. 庶務の概要

1) 役員に関する事項

令和4年3月31日現在

役職名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	年間給与(千円)	担当職務	所属
会長	北後明彦	非常勤	R01.5.25	なし	法人代表	神戸大学
副会長	鶴田俊	非常勤	R03.6.11	〃	会長補佐	秋田県立大学
常務理事	道越由華 (池畠由華)	非常勤	R01.5.25	〃	総務	大成建設㈱技術センター
常務理事	中村雅之	非常勤	R01.5.25	〃	会計	能美防災㈱
常務理事	小野修	非常勤	R03.6.11	〃	企画	東京消防庁
常務理事	佐野友紀	非常勤	R01.5.25	〃	学術	早稲田大学
常務理事	佐藤嘉彦	非常勤	同上	〃	刊行	科学警察研究所
常務理事	大竹晃行	非常勤	R03.6.11	〃	普及	東京消防庁
理事	阿部伸之	非常勤	R01.5.25	〃		消防庁消防研究センター
理事	岩下友安	非常勤	R03.6.11	〃		山梨県警察本部科学捜査研究所
理事	岩見達也	非常勤	R01.5.25	〃		国土交通省国土技術政策総合研究所
理事	門倉徹	非常勤	R01.5.25	なし		東京消防庁
理事	鈴木健	非常勤	同上	〃		消防庁消防研究センター
理事	関修治	非常勤	R03.6.11	〃		㈱モリタホールディングス
理事	中村祐二	非常勤	同上	〃		豊橋技術科学大学
理事	古川容子	非常勤	R01.5.25	〃		(一財)日本建築センター
理事	水野雅之	非常勤	同上	〃		東京理科大学
理事	吉岡英樹	非常勤	R03.6.11	〃		国立研究開発法人建築研究所
理事	吉野攝津子	非常勤	同上	〃		㈱大林組技術研究所
監事	石田博志	非常勤	R01.5.25	なし	監事	ホーチキ(株)開発研究所
監事	栗岡均	非常勤	同上	〃	〃	特定非営利活動法人 日本防火技術者協会
監事	新野拓二	非常勤	R01.5.25	なし	監事	損害保険料率算出機構

2) 職員に関する事項

事務局長 パート事務員	荻野恭久 渡邊英美子	H31.4.1 H16.4.1	学会事務の総括 庶務・会員事務	常勤 非常勤
----------------	---------------	--------------------	--------------------	-----------

3) 役員会などに関する事項

ア. 理事会

開催月日	議事・報告事項	会議結果
平成3年 4月22日 第366回	1. 会員異動報告および会計報告 2. 2020年度講演討論会収支決算報告 3. 総務委員会報告(2021年度定時総会企画案) 4. 学術委員会報告(2021年度研究発表会・講演討論会・2022年度研究発表会) 5. ISO/TC92/WG15委員の推薦依頼 6. 令和2年度(2020年度)事業結果決算報告の審議 7. 令和3年度事業計画・収支予算の審議 8. 令和3年度名誉会員候補者の推薦	報告 〃 〃 〃 〃 報告 承認 議決 議決
平成3年 6月11日 第367回	1. 会員異動報告および会計報告 2. 会長の互選 3. 副会長の互選	報告 選出 〃

	4. 常務理事の選出 5. その他の委員会理事の選出	同意選定 選出
令和 3 年 9 月 17 日 第 368 回	1. 会員異動報告および会計報告 2. 学会賞、内田奨励賞、技術賞、業績賞会告 3. 総務委員会報告(女子中高生夏の学校 2021 の参加報告) 4. 総務委員会報告(韓国火災消防学会およびその他の国際対応) 5. 学術委員会報告(研究発表会、講演討論会開催方法) 6. 刊行委員会報告(火災誌 HP アップロード、印刷製本費の削減、火災検索システム等の講師状況) 7. 普及委員会報告(火災科学セミナーアー会告) 8. 令和 3 年度収支予算の変更	報告 承認 報告 〃 承認 報告 承認 議決
令和 3 年 12 月 13 日 第 369 回	1. 会員異動報告および会計報告 2. 総務委員会報告(2022 年度定時総会オンライン開催) 3. 学術委員会報告(講演討論会オンライン開催) 4. 刊行委員会報告(学会ホームページ不正アクセスおよび改ざん事例) 5. 第 60 回火災科学セミナー開催結果報告 6. 2022 年度鹿島学術振興財団研究助成申請の選考結果の審議 7. 一般社団法人日本建築学会から後援依頼 8. 2022 年度研究発表会のオンライン開催 9. ホーページ不正アクセスに伴う予算執行の審議 10. 内田博士記念研究助成申請審査結果	報告 承認 〃 報告 〃 承認 〃 〃 議決 〃
令和 4 年 2 月 16 日 第 370 回	1. 会員異動報告および会計報告 2. 総務委員会報告(2022 年度定時総会進捗報告、会員増への対応) 3. 学術委員会報告(2021 年度講演討論会結果報告、2022 年度研究発表会進捗報告) 4. 刊行委員会報告(不正アクセスに伴うセキュリティ強化報告) 5. 韓国火災消防学会との協定 6. 令和 4 年度学会賞、内田奨励賞、技術賞の審議	報告 〃 〃 〃 承認 議決

4. 常務理事会

常務理事会は、新型コロナ(COVID-19)感染拡大防止に配慮し、会議方式はリモートによる会議とし、令和 3 年 7 月 19 日、9 月 13 日、11 月 8 日、令和 4 年 1 月 21 日、3 月 15 日の 5 回の他令和 4 年 4 月 8 日臨時常務理事会を開催した。

5. 定時総会

開催月日	議事・報告事項	会議結果
令和 3 年 5 月 27 日	1. 定足数についての報告 2. 令和 2 年度(2020 年度)事業報告 3. 令和 2 年度(2020 年度)収支決算報告および監査報告 4. 2021・2022 年度役員候補者の報告 5. 日本火災学会名誉会員称号者の承認 6. 定時総会議事録の署名捺印者の選出 7. 定款の変更案の決議 8. 令和 3 年度事業計画、予算計画の報告 9. 学会賞選考委員会の報告	報告 報告 承認 承認 承認 選議 報告 報告

4) 許可、認可、承認、証明等に関する事項 本年度なし

5) 寄付金に関する事項

なし

6) 会員の異動状況

会員種別	令和3年3月31日現在	令和4年3月31日現在	増 減
名誉会員	8名	8名	±0名
正会員A	644名	625名	-19名
正会員B	527名	490名	-37名
賛助会員 (口数)	98団体 (126口)	95団体 (123口)	-3団体 (-3口)

7) 常置委員会の活動概要

ア. 総務委員会

- ア) 令和3年度（2021年度）定時総会の委任状を取り纏め、総会を実施した。新型コロナウィルスの感染拡大防止に配慮し、対面での開催を中止し、オンライン開催とした。
- イ) 公益社団法人として、顧問税理士を通じ、経理事務の適正な執行に努め、各種事業を推進した。
- ウ) 会員特典の整理を実施し、会員数を増加させるための方策について議論した。
- エ) 女子中高生夏の学校のポスターとキャリア相談にオンラインで参加し、女子中高生に火災に関する最新の研究・技術の紹介を行った。

イ. 企画委員会

内閣府へ定款の変更の手続きを行った。

ウ. 学術委員会

- ア) 2021年度研究発表会の開催を準備し、PDFダウンロードおよびCD-ROM版の概要集を発行した（1.1.7. 参照）。
- イ) 講演討論会を計画、立案、準備、開催した（1.1.ウ. 参照）。
- ウ) 委員会傘下の7の専門委員会の本格的な運用を行い、活発な委員会活動を推進した。
- エ) 2022年度の研究発表会をオンライン開催することを決定するとともに、開催に向けた検討を推進した。

エ. 刊行委員会

- ア) 定期刊行物である会誌「火災」及び論文集を編集し、出版した。
- イ) 会誌記事や研究発表会概要集の本会ホームページへのアップロードの促進、常置委員会等のホームページ情報の更新や充実強化を図った。
- ウ) 論文集のオンラインジャーナル化、オープンアクセス化に向けての検討を行った。

オ. 普及委員会

当初、さいたま市及び名古屋市の二会場での開催を予定していたが、新型コロナ感染症拡大防止対策のため集合形式では実施せずに、有識者による講演映像を録画したDVD送付形式により実施した。163団体（個人も含む）から、551セッタの申し込みがあった。

カ. IAFSS シンポジウム準備委員会

- ア) 2023年10月22～27日につくば国際会議場で開催されるIAFSSシンポジウムの会場やプログラムについて検討した。
- イ) 現地実行委員会設置に向けた準備として、委員や役割について検討した。

8) 委員会の委員

ア. 常置委員会、専門委員会、小委員会の委員
総務委員会

道越由華（池畠由華、委員長）、中村雅之（副委員長）、吉野攝津子（幹事）、門倉徹、関修治、佐藤康博、富山昇吾、長岡勉、松原美之、宮本圭一、茂木俊夫

企画委員会

小野修(委員長), 岩見達也(副委員長), 阿部伸之(幹事), 新谷祐介, 中濱慎司, 平井弘毅

学術委員会

佐野友紀(委員長), 中村祐二(副委員長), 村田眞志(幹事), 鈴木 健, 水野雅之, 吉岡英樹,

趙玄素, 鳥飼宏之, 大津暢人, 榎本満帆, 新谷祐介, 峯岸良和, 市川俊和, 上矢恭子, 岡安 克也

[化学火災専門委員会] 田村昌三(主査), 中村順(幹事), 板垣晴彦, 岩田雄策, 田村孝一, 山本淳史,
風間守, 大川和人, 市川俊和, 阪柳正隆, 浜村淳, 和田有司

[自動車火災専門委員会] 田村陽介(主査), 山崎浩嗣(幹事), 渡邊憲道, 須川修身, 根之木正浩,
姉崎教史, 佐藤研二, 諏訪正廣, 高橋直人, 堀越めぐみ, 畠中育久, 横田昌弘, 吉野薰,
上矢恭子

[地震火災専門委員会] 北後明彦(主査), 廣井悠(幹事), 岩見達也, 抱憲誓, 鍵屋浩司, 水村一明,
佐藤研二, 高梨成子, 成瀬友宏, 西田幸夫, 榎本圭佑, 村田明子, 山田常圭, 大津暢人,
花井英枝

[避難行動専門委員会] 水野雅之(主査), 峯岸良和(幹事), 秋月有紀, 池畠由華, 印南潤二, 榎本満帆,
河合邦治, 桑名秀明, 佐野友紀, 関澤愛, 富松太基, 野竹宏彰, 萩原一郎, 水落秀木,
吉野摶津子

[火災ガス毒性専門委員会] 成瀬友宏(主査), 若月薰(幹事), 高橋太, 高橋伸幸, 棚池裕, 趙玄素,
西田光輝, 藤本郷史, 本間正勝, 吉岡英樹

[文化財建造物防災専門委員会] 長谷見雄二(主査), 土屋伸一(幹事), 梅津章子, 後藤治, 関澤愛,
野村和宣, 榎本圭佑, 万本敦, 峯岸良和, 森山修治, 八木真爾

[消火戦略に関する専門委員会] 中村祐二(主査), 鳥飼宏之(幹事), 廣田光智, 斎藤寛泰, 尾川義雄,
吉川昭光, 遠藤辰基, 中村雅之, 大木健二, 福田真弓, 若月薰, 大越雅之, 茨木博

刊行委員会

佐藤嘉彦(委員長), 岩下友安(副委員長), 古川容子(幹事), 松山賢, 水野雅之, 桑名秀明

[火災誌編集小委員会A] 水野雅之(主査), 常世田昌寿(幹事A), 秋月有紀, 市川岳, 今村友彦,
大高浩, 抱憲誓, 工藤祐嗣, 関澤愛, 塚目孝裕, 土橋常登, 出口嘉一, 出町聰,
福田真弓

[火災誌編集小委員会B] 水野雅之(主査), 小柴祐介(幹事B), 大竹宏明, 岡本勝弘, 篠原雅彦,
城明秀, 鈴木圭一, 鈴木正太郎, 仁井大策, 橋本好弘, 廣井悠, 万本敦, 八島正明

[論文集編集小委員会] 松山賢(主査), 堀田博文(幹事), 近藤史朗, 佐藤研二, 関澤愛, 塚目孝裕,
土橋律, 若月薰, 山内幸雄

[ホームページ小委員会] 桑名秀明(主査), 石原慶大(幹事), 佐藤康博, 中濱慎司, 岡安克也,
松山賢, 水上点晴

普及委員会

大竹晃行(委員長), 伊東尚(副委員長), 佐藤雄輝(幹事), 水上点晴, 阿部伸之, 田中智子,
大友正人, 宇多範泰, 田村公夫, 藤井一徳, 山田尚功, 松苗春夫, 北弘典, 増井幸弘

4. その他の委員会の委員

[学会賞選考委員会]

鶴田俊(委員長), 道越由華(池畠由華), 小野修, 佐野友紀, 佐藤嘉彦, 大竹晃行

[内田博士記念事業運営委員会]

小野修(委員長), 鶴田俊, 道越由華(池畠由華), 佐野友紀, 佐藤嘉彦

[学生奨励賞選考委員会]

鶴田俊(委員長), 板垣晴彦(幹事), 山口純一, 廖赤虹, 門倉徹, 水野雅之, 大和征良, 高黎静,
馬場重彰, 桑名一徳, 栗岡均, 野秋政希

[研究助成選考委員会]

佐野友紀(委員長), 道越由華(池畠由華), 中村雅之, 小野修

[情報公開審査委員会]

鶴田俊（委員長），道越由華（池畠由華）（副委員長），中村雅之，小野修，佐野友紀，佐藤嘉彦，
大竹晃行

[IAFSS シンポジウム準備委員会]

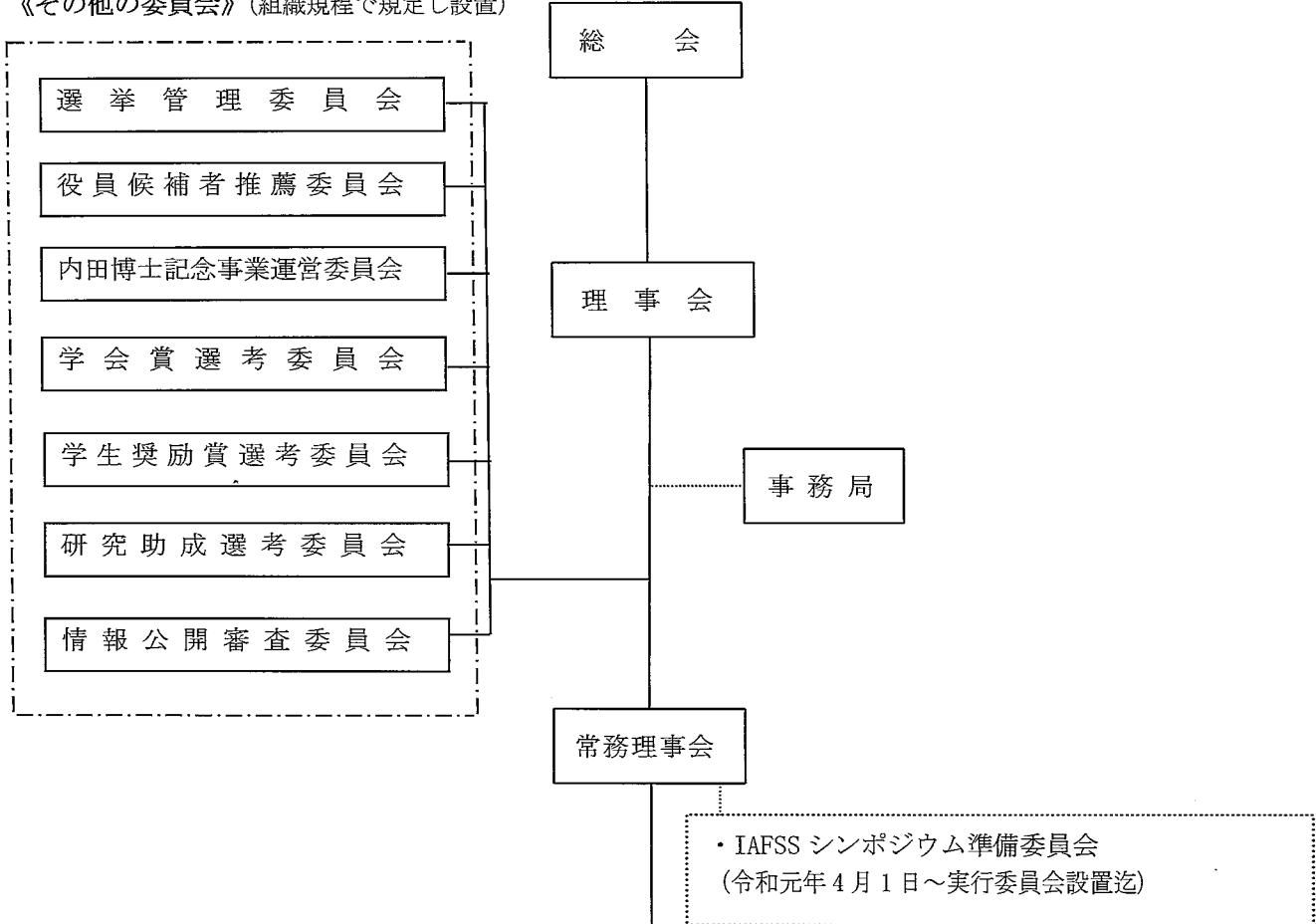
土橋律（委員長），中村祐二，大宮喜文，萩原一郎，松山賢，桑名一徳

以上

公益社団法人 日本火災学会組織図

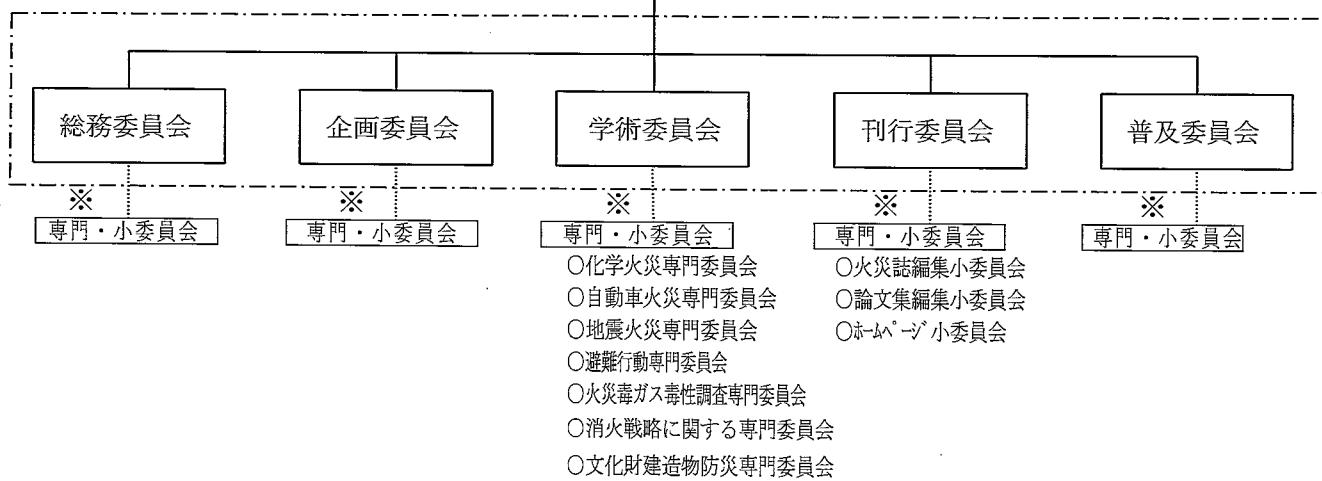
令和4年3月31日現在

《その他の委員会》(組織規程で規定し設置)



《常置委員会》

(定款に定める本会の目的達成のため組織規程に規定し常置)



※ (専門小委員会は必要に応じて設置・廃止)

令和3年度（2021年度）決算報告書

自 令和3年 4月 1日
至 令和4年 3月31日

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
3. 正味財産増減計算書内訳表
4. 財務諸表に対する注記
5. 附属明細書
6. 財産目録

公益社団法人 日本火災学会
東京都文京区弥生2-4-16

貸借対照表

令和4年3月31日現在

公益社団法人日本火災学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,365,073	11,106,609	1,258,464
未収会費	792,000	1,048,000	△ 256,000
未収金	0	0	0
前払金	53,100	133,980	△ 80,880
流動資産合計	13,210,173	12,288,589	921,584
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	1,004,206	1,004,197	9
内田博士記念事業資産	64,600,000	67,600,000	△ 3,000,000
調査研究引当資産	500,835	500,825	10
事務局整備積立資産	11,292,094	11,292,090	4
AOSFST実行委員会積立預金	2,500,137	2,500,113	24
特定資産合計	79,897,272	82,897,225	△ 2,999,953
(2) その他固定資産			
什器備品	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0
保証金	414,000	414,000	0
その他固定資産合計	414,000	414,000	0
固定資産合計	80,311,272	83,311,225	△ 2,999,953
資産合計	93,521,445	95,599,814	△ 2,078,369
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	591,560	590,748	812
前受金	102,000	618,000	△ 516,000
前受会費	4,642,000	4,264,000	378,000
預り金	82,314	103,142	△ 20,828
賞与引当金	210,000	210,000	0
流動負債合計	5,627,874	5,785,890	△ 158,016
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,004,191	1,004,191	0
固定負債合計	1,004,191	1,004,191	0
負債合計	6,632,065	6,790,081	△ 158,016
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	67,100,137	70,100,113	△ 2,999,976
指定正味財産合計	67,100,137	70,100,113	△ 2,999,976
(うち特定資産への充当額)	(67,100,137)	(70,100,113)	(△2,999,976)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	19,789,243	18,709,620	1,079,623
正味財産合計	(11,792,929)	(11,792,915)	(14)
負債及び正味財産合計	86,889,380	88,809,733	△ 1,920,353

正味財産増減計算書

令和3年 4月 1日から令和4年 3月31日まで

公益社団法人日本火災学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	130,354	133,987	△ 3,633
特定資産受取利息	130,354	126,748	3,606
受取会費	17,388,000	17,692,000	△ 304,000
正会員受取会費	10,008,000	10,216,000	△ 208,000
賛助会員受取会費	7,380,000	7,476,000	△ 96,000
事業収益	4,068,552	2,717,575	1,350,977
研究発表・セミナー・講演事業収益	2,017,500	0	2,017,500
調査研究収益	0	0	0
図書配布金収益	2,051,052	2,717,575	△ 666,523
受取補助金等	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0
受取寄付金	1,000,000	0	1,000,000
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金振替額	1,000,000	0	1,000,000
雑収益	4,603	4,850	△ 247
受取利息	79	151	△ 72
雑収益	4,524	4,699	△ 175
経常収益計	22,591,509	20,548,412	2,043,097
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	21,789,127	22,350,365	△ 561,238
賞与引当費用	4,614,975	4,491,850	123,125
臨時雇賃金	168,000	168,000	0
退職給付費用	240,000	190,000	50,000
法定福利費	0	192,000	△ 192,000
福利厚生費	585,971	592,584	△ 6,613
会議費	2,800	2,800	0
旅費交通費	102,443	489,018	△ 386,575
通信運搬費	455,972	319,262	136,710
通信運搬費	3,581,234	2,216,399	1,364,835
減価償却費	0	0	0
消耗品費	301,577	448,861	△ 147,284
修繕費	0	0	0
印刷製本費	5,798,906	7,613,650	△ 1,814,744
光熱水料費	13,848	11,519	2,329
賃借料	2,401,790	2,232,831	168,959
諸謝金	1,306,657	1,270,800	35,857
租税公課	1,440	0	1,440
支払負担金	20,000	20,000	0
支払助成金	1,200,934	1,000,467	200,467
委託費	557,700	418,000	139,700
雜費	434,880	672,324	△ 237,444

公益社団法人日本火災学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	1,722,759	1,796,179	△ 73,420
給料手当	686,000	854,000	△ 168,000
賞与引当費用	42,000	42,000	0
退職給付費用	0	48,000	△ 48,000
法定福利費	146,492	148,146	△ 1,654
福利厚生費	700	700	0
会議費	5,254	4,055	1,199
旅費交通費	1,624	945	679
通信運搬費	159,640	113,856	45,784
減価償却費	0	0	0
消耗品費	180	175	5
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	0	0
光熱水料費	3,462	2,879	583
賃借料	522,735	451,499	71,236
諸謝金	112,200	105,600	6,600
租税公課	360	0	360
支払負担金	0	0	0
雑費	42,112	24,324	17,788
経常費用計	23,511,886	24,146,544	△ 634,658
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 920,377	△ 3,598,132	2,677,755
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 920,377	△ 3,598,132	2,677,755
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度修正益	2,000,000	0	2,000,000
過年度受取寄附金振替	2,000,000	0	2,000,000
経常外収益計	2,000,000	0	2,000,000
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	2,000,000	0	2,000,000
当期一般正味財産増減額	1,079,623	△ 3,598,132	4,677,755
一般正味財産期首残高	18,709,620	22,307,752	△ 3,598,132
一般正味財産期末残高	19,789,243	18,709,620	1,079,623
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
特定資産運用益	24	24	0
特定資産受取利息	24	24	0
一般正味財産への振替額	△ 3,000,000	0	△ 3,000,000
一般正味財産への振替額	△ 3,000,000	0	△ 3,000,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,999,976	24	△ 3,000,000
指定正味財産期首残高	70,100,113	70,100,089	24
指定正味財産期末残高	67,100,137	70,100,113	△ 2,999,976
III 正味財産期末残高	86,889,380	88,809,733	△ 1,920,353

正味財産増減計算書内訳表

令和3年 4月 1日から令和4年 3月31日まで

(単位:円)

公益社団法人日本火災学会

科 目	公益目的会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	130,341	13		130,354
特定資産受取利息	130,341	13		130,354
受取会費	12,384,000	5,004,000		17,388,000
正会員受取会費	5,004,000	5,004,000		10,008,000
賛助会員受取会費	7,380,000	0		7,380,000
事業収益	4,068,552	0		4,068,552
研究発表・セミナー・講演事業収益	2,017,500	0		2,017,500
調査研究収益	0	0		0
図書配布金収益	2,051,052	0		2,051,052
受取補助金等	0	0		0
受取民間助成金	0	0		0
受取寄付金	1,000,000	0		1,000,000
受取寄付金	0	0		0
受取寄付金振替額	1,000,000	0		1,000,000
雑収益	4,535	68		4,603
受取利息	11	68		79
雑収益	4,524	0		4,524
経常収益計	17,587,428	5,004,081		22,591,509
(2) 経常費用				
事業費・管理費	21,789,127	1,722,759		23,511,886
給料手当	4,614,975	686,000		5,300,975
賞与引当費用	168,000	42,000		210,000
臨時雇賃金	240,000	0		240,000
退職給付費用	0	0		0
法定福利費	585,971	146,492		732,463
福利厚生費	2,800	700		3,500
会議費	102,443	5,254		107,697
旅費交通費	455,972	1,624		457,596
通信運搬費	3,581,234	159,640		3,740,874
減価償却費	0	0		0
消耗品費	301,577	180		301,757
修繕費	0	0		0
印刷製本費	5,798,906	0		5,798,906
光熱水料費	13,848	3,462		17,310
賃借料	2,401,790	522,735		2,924,525
諸謝金	1,306,657	112,200		1,418,857
租税公課	1,440	360		1,800
支払負担金	20,000	0		20,000
支払助成金	1,200,934	0		1,200,934
委託費	557,700	0		557,700
雑費	434,880	42,112		476,992

公益社団法人日本火災学会

(単位：円)

科 目	公益目的会計	法人会計	内部取引消去	合 計
経常費用計	21,789,127	1,722,759		23,511,886
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,201,699	3,281,322		△ 920,377
評価損益等計	0	0		0
当期経常増減額	△ 4,201,699	3,281,322		△ 920,377
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
過年度寄附金振替額	2,000,000			2,000,000
経常外収益計	2,000,000	0		2,000,000
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0		0
当期経常外増減額	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 2,201,699	3,281,322		1,079,623
当期一般正味財産増減額	△ 2,201,699	3,281,322		1,079,623
一般正味財産期首残高	△ 28,767,949	47,417,569		18,649,620
一般正味財産期末残高	△ 30,909,648	50,698,891		19,789,243
II 指定正味財産増減の部				
特定資産運用益	24	0		24
特定資産受取利息	24	0		24
一般正味財産への振替額	△ 3,000,000	0		△ 3,000,000
一般正味財産への振替額	△ 3,000,000	0		△ 3,000,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,999,976	0		△ 2,999,976
指定正味財産期首残高	70,100,113	0		70,100,113
指定正味財産期末残高	67,100,137	0		67,100,137
III 正味財産期末残高	36,190,489	50,698,891		86,889,380

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券として取得原価により計上している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、定額法を採用している。

(3) 引当金の計上基準

職員の賞与手当について、当期の負担分を見積計上している。

職員の退職給付債務について、期末要支給額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込処理

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高 ※1	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備 考
特定資産					
退職給付引当資産	1,004,197	9	0	1,004,206	
内田博士記念事業資産	67,600,000	0	3,000,000	64,600,000	
調査研究引当資産	500,825	10	0	500,835	
事務局整備積立資産	11,292,090	4	0	11,292,094	
AOSFST実行委員会積立預金	2,500,113	24	0	2,500,137	
合 計	82,897,225	47	3,000,000	79,897,272	

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)	備 考
特定資産					
退職給付引当資産	1,004,206	0	0	(1,004,206)	
内田博士記念事業資産	64,600,000	(64,600,000)	0	0	
調査研究引当資産	500,835	0	(500,835)	0	
事務局整備積立資産	11,292,094	0	(11,292,094)	0	
AOSFST実行委員会積立預金	2,500,137	(2,500,137)	0	0	
合 計	79,897,272	(67,100,137)	(11,792,929)	(1,004,206)	

5. 担保に供している資産

なし

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高	備 考
学会誌検索システム	657,800	657,800	0	
合 計	657,800	657,800	0	

7. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

なし

8. 保障債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶発債務

なし

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

・満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類	帳簿価額	時価	評価損益	備考
公社債投信(みずほ証券)	34,600,000	34,603,460	3,460	
利付国庫債券(みずほ証券)	30,000,000	29,958,000	(42,000)	
公社債投信(大和証券)	10,792,090	11,001,379	209,289	
合計	75,392,090	75,562,839	170,749	

10. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

なし

11. 基金及び代替基金の増減額及び残高

なし

12. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額(内田博士記念事業資産取崩額)	3,000,000
合計	3,000,000

13. 資金調達及び設備投資の見込みについて

なし

14. 関連当事者との取引の内容

なし

15. 重要な後発事象

なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記に記載

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	210,000	210,000	210,000	0	210,000
退職給付引当金	1,004,197	0	0	0	1,004,197

財産目録

令和4年 3月31日現在

公益社団法人日本火災学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	119,147
	預金	普通預金	運転資金として	5,633,327
		みずほ普通預金	運転資金として	2,250,946
		法人会計	運転資金として	3,382,381
		みずほ普通預金	公益事業推進資金として	
		内田基金	運転資金として	6,612,599
		郵便振替貯金	受取会費の未収分	792,000
	未収会費			0
	未収金			
	前払金		火災科学セミナー大阪会場費	53,100
流動資産合計				13,210,173
(固定資産)				
特定資産				
	退職給付引当資産	普通預金 みずほ銀行本郷支店	職員の退職給付に充てるため、引当てている。	79,897,272 1,004,206
	退職給付引当資産(他)			1,004,206
	内田博士記念事業資産	公社債 利付国庫債券 みずほ証券新宿支店	公益目的保有財産であり、研究、表彰等の事業に使用するため寄付を受け保有する資産である。	34,600,000 30,000,000
	積立預金(指定)			64,600,000
	調査研究引当資産	貸付信託 三井住友信託銀行上野	火災に関する調査研究事業の資産である。	500,835
	積立預金(一般)			500,835
	事務局整備積立資産	公社債投信 大和証券 本店 普通預金 みずほ銀行本郷支店	事務局整備のための資産である。	10,792,090 500,004
	積立預金(一般)			11,292,094
	AOSFST実行委員会積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	国際火災シンポジウム国内招致のための資産である。	2,500,137
	積立預金(指定)			2,500,137
その他固定資産	ソフトウェア	学会誌検索システム	会員が火災誌を見るためのシステム	414,000
	保証金	イースタンリアルエステイト㈱	事務室の保証金である。	0
固定資産合計				414,000
資産合計				80,311,272
				93,521,445
(流動負債)				
	未払金			591,560
	事業委員会委員未払金		理事会、委員会等の交通費、	547,796
	社会保険料未払金		職員の社会保険料の事業所負担分	43,764
	受託事業謝金			
	前受金		購読料の前受分	102,000
	前受会費		会費の前受分	4,642,000
	預り金		納付又は納税	82,314
	給料・源泉所得税		職員の給料に対する源泉徴収預り金	20,166

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
預り金 社会保険料預り金 報酬料金・源泉所得税預り金 住民税 賞与引当金		社会保険料の自己負担分 報酬料金に対する源泉所得税預り金 職員の給料に対する住民税預り金 職員の賞与手当について、当期の負担分を見積計上している。	49,896 12,252 0 210,000
流動負債合計			5,627,874
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの みずほ銀行本郷支店	職員の退職給付に充てるため引当 てている。
固定負債合計			1,004,191
負債合計			6,632,065
正味財産			86,889,380

監査報告書

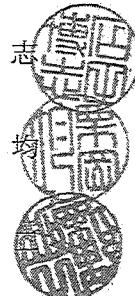
令和4年4月20日

公益社団法人日本火災学会

会長 北後 明彦 殿

公益社団法人 日本火災学会

監事 石田 博志



監事 栗岡 均



監事 新野 拓



私たち監事は、令和3年度(2021年度)（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）における事業報告等、財務諸表等及び理事の職務執行状況の監査を行いましたので、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方に基づき、当該事業年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書、財産目録）について検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 事業報告等（事業報告及びその附属明細書）は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書、財産目録）は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

報 告

- ・令和 4 年度（2022 年度）事業計画
- ・令和 4 年度（2022 年度）予算計画
(収支予算書)

令和 4 年 5 月 26 日

公益社団法人 日本火災学会

令和4年度（2022年度）事業計画(案)

公益社団法人 日本火災学会

日本火災学会の研究交流、技術普及、意見交換の場として本年度も下記の事業を行う。

1. 研究発表会、火災科学セミナー、講演討論会、シンポジウム等の開催

1) 研究発表会

- ・開催日時：令和4年5月28日（土）、29日（日）
- ・開催場所：オンライン開催
- ・研究発表会概要集：会員が投稿した研究内容をまとめてCD版として発行する。

2) 火災科学セミナー

ア. 東日本会場（川崎会場）

- ・開催日時：令和4年10月28日（金） 13時00分から16時30分
- ・開催場所：神奈川県川崎市幸区堀川町66番地20
川崎市産業振興会館（定員478席）

- ・セミナー主題等：検討中

イ. 中部・西日本会場（大阪会場）

- ・開催日時：令和4年11月4日（金） 13時00分から16時30分
- ・開催場所：大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋4-19-118
阿倍野区民センター（定員644席）

- ・セミナー主題等：検討中

ウ. 火災科学セミナーテキスト：両会場の講演内容をまとめて発行する。

3) 講演討論会

- ・開催日時：令和5年1月末予定 13時00分から16時30分
- ・開催場所：オンライン開催
- ・討論主題：未定
- ・講演討論会テキストPDF：基調講演の講演内容をまとめて発行する。

4) 専門委員会シンポジウム等

専門委員会が状況に応じたシンポジウム等を計画する。

5) 関連学術団体などの事業

本年度は、オンライン開催を予定している安全工学シンポジウム、燃焼シンポジウム、女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～などの関連学術団体の事業を共催・協力する。また、本会の目的に沿った事業を他学術団体と協賛する。

※上記1)～5)に関して、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の状況に応じて、オンライン開催等、適切に対応を検討していく。

2. 学会誌、学術図書等の発行及び編集

1) 会誌「火災」

火災に関する科学上、技術上の新たな知見や情報、重要な事例及び調査結果、実験的・解析的研究などを広く会員に公表するため、会誌「火災」を下記のとおり発行する。

- ・発行回数：年6回（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ・発行部数：各号 1,500部
- ・発行頁数：各号平均 64頁

2) 論文集

会員が関わる研究から得られた一般論文、ノート、火災に関する総説などで、所定の審査を経て、採用が決定した論文をまとめて発行する。

・発行回数：年3回（不定期）

・発行部数：各号 800部 ・発行頁数：各号平均 20頁

3. 本会ホームページ等の充実強化

- 1) 各常置委員会は、本会ホームページを適宜、更新するとともに、担当業務の情報をタイムリーに一斉メール配信し、情報提供に努める。
- 2) 大規模災害等の発生時には、本会の専門性を生かし、社会の福祉に寄与する情報発信を行う。
- 3) 本会ホームページの英語版を活用し、情報発信の国際化を図る。

4. 研究および調査委員会等の積極的な活動推進

- 1) 火災科学・技術の調査研究等を学術委員会傘下の専門委員会を通じ推進する。
- 2) 火災に係る調査研究依頼に基づく受託事業及び補助金事業を推進する。
- 3) 一般社団法人防災学術連携体に参加し、火災・避難安全対策面からの提言を発信する。

5. 情報の管理と発信

- 1) 個人情報保護法及び本会の規程・プライバシーポリシーに基づき、本会が所有する個人情報及び公開する各種情報を適正に管理する。
- 2) 会誌「火災」を本会ホームページの検索システムに登録し、火災科学・技術の普及に努める。
- 3) 研究発表会概要集を本会ホームページの検索システムに登録し、火災科学・技術の普及に努める。
- 4) 火災学会論文集をJ-Stage・ISSNに継続して登録し、火災科学・技術の普及に努める。

6. 顕彰及び研究助成

- 1) 日本火災学会賞
火災科学・技術に優れた業績を挙げた研究・技術者を顕彰する。
- 2) 日本火災学会内田奨励賞
独創性と将来性に富む新進の研究者を顕彰する。
- 3) 日本火災学会功労賞
日本火災学会の運営、会務などに顕著な功労があった会員を顕彰する。
- 4) 日本火災学会学生奨励賞
若手研究者の育成を目指し、優秀な研究発表を行った学生を顕彰する。
- 5) 日本火災学会技術賞
近年適用された優れた技術の確立に貢献した者を顕彰する。
- 6) 日本火災学会業績賞
火災安全の進展や普及に大きく貢献する近年の活動を実施した者を顕彰する。
- 7) 内田博士記念研究助成
優れた火災科学・技術の研究グループによる研究の促進を図るため、研究助成金を交付する。
- 8) 鹿島学術振興財団の研究助成への推薦
優れた火災科学・技術の研究グループによる研究の促進を図るため、標記財団の研究助成を推薦する。

7. 国際的な活動事業

- 1) 平成28年度に韓国火災消防学会と結んだ協定を延長し、火災安全に係わる情報交流を推進する。
- 2) SFPE（防火技術者協会）日本支部と協賛し、シンポジウムなどを通じて、諸外国の防火技術者との国際交流を図る。

- 3) 2023年に開催予定の第14回IAFSS国際シンポジウムの現地実行委員会を立ち上げる。

8. その他事業

1) 財政基盤の強化

会員の権利・特典の整理など会員増加に向けた方策の立案を行う。特に賛助会員の入会を促進する。

2) 規程・要綱の改正等

改訂等された規程、要領をまとめ、規程、要領集を作成する。

3) 学会事業の効率化

学会事業の効率化に向けた情報機器(Web会議やビデオDVD、HPなど)の活用促進と効果を検証する。

4) 論文集オンラインジャーナル化

論文集のオンラインジャーナル化について、フリーアクセス化およびオープンアクセス化の検討を行う。

5) その他

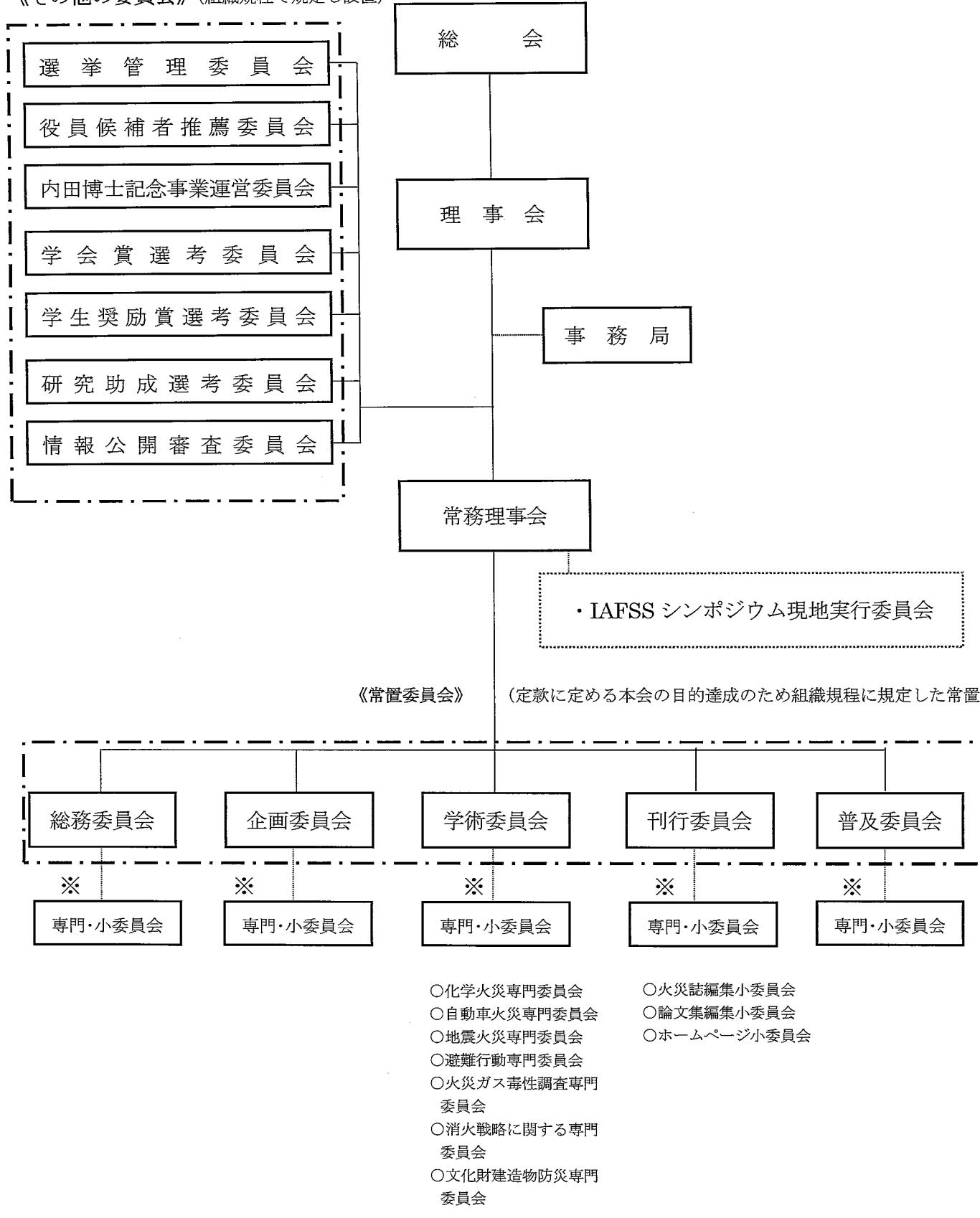
定款の目的を達成するために必要な、上記以外の事業を行う。

以上

公益社団法人 日本火災学会組織図

令和4年4月1日現在

《その他の委員会》(組織規程で規定し設置)



収支予算書

令和4年 4月 1日から令和5年 3月31日まで

(単位:円)

公益社団法人日本火災学会

科 目	公益目的会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	120,000	0	120,000
特定資産受取利息	120,000	0	120,000
特定資産受取配当	0	0	0
受取会費	12,322,000	4,942,000	17,264,000
正会員受取会費	4,942,000	4,942,000	9,884,000
賛助会員受取会費	7,380,000		7,380,000
事業収益	4,065,000	0	4,065,000
研究発表・セミナー・講演事業収益	2,565,000	0	2,565,000
調査研究収益	0	0	0
図書配布金収益	1,500,000	0	1,500,000
受取補助金等	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0
受取寄付金	1,000,000	0	1,000,000
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金振替額	1,000,000	0	1,000,000
雑収益	11,000	0	11,000
受取利息	1,000	0	1,000
雑収益	10,000	0	10,000
経常収益計	17,518,000	4,942,000	22,460,000
(2) 経常費用			
事業費	20,839,000	0	20,839,000
給料手当	4,620,000	0	4,620,000
賞与引当費用	168,000	0	168,000
臨時雇賃金	240,000	0	240,000
退職給付費用	0	0	0
法定福利費	600,000	0	600,000
福利厚生費	2,000	0	2,000
会議費	85,000	0	85,000
旅費交通費	445,000	0	445,000
通信運搬費	2,570,000	0	2,570,000
減価償却費	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	245,000	0	245,000
修繕費	10,000	0	10,000
印刷製本費	5,700,000	0	5,700,000
光熱水料費	17,000	0	17,000
賃借料	2,500,000	0	2,500,000
諸謝金	1,350,000	0	1,350,000
租税公課	2,000	0	2,000
支払負担金	20,000	0	20,000
支払助成金	1,000,000	0	1,000,000
委託費	795,000	0	795,000
雑 費	470,000	0	470,000
管理費	0	1,471,000	1,471,000
給料手当	0	680,000	680,000
賞与引当費用	0	42,000	42,000
退職給付費用	0	0	0
法定福利費	0	140,000	140,000
福利厚生費	0	3,000	3,000
会議費	0	5,000	5,000
旅費交通費	0	5,000	5,000
通信運搬費	0	30,000	30,000
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	0	5,000	5,000
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	15,000	15,000

科 目	公益目的会計	法人会計	合 計
光热水料費	0	3,000	3,000
賃借料	0	430,000	430,000
諸謝金	0	105,000	105,000
租税公課		0	0
雜 費	0	8,000	8,000
経常費用計	20,839,000	1,471,000	22,310,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,321,000	3,471,000	150,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,321,000	3,471,000	150,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0		
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,321,000	3,471,000	150,000
一般正味財産期首残高	△ 30,909,648	50,698,891	19,789,243
一般正味財産期末残高	△ 34,230,648	54,169,891	19,939,243
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 1,000,000	0	△ 1,000,000
当期指定正味財産増減額	△ 1,000,000	0	△ 1,000,000
指定正味財産期首残高	67,100,137	0	67,100,137
指定正味財産期末残高	66,100,137	0	66,100,137
III 正味財産期末残高	31,869,489	54,169,891	86,039,380